

サンパウロ大学への協定校留学 月例報告書（6月分）

ついに1年間の留学も終わりに近づいてきて、最後の月例報告書を作成していることが感慨深いです。独自の文化で魅力に溢れたブラジルについて、この報告書を通してみなさんに興味を持ってもらえていたらとてもうれしいです。今月は、ブラジルが最も熱くなるサッカーワールドカップ、そしてフェスタ・ジュニーナと呼ばれるお祭りが開催されています。現地でしか体験することができないイベントが盛りだくさんの一か月でした。また、大学のストライキがついに終わりを迎えたので、授業も再開し、月末は試験期間に入り、図書館で一日を過ごすことが増えています。

フェスタ・ジュニーナ

キリスト・カトリック教のお祭りで、6月（junho）に以下の3人の聖人への敬意を示すために、各地で開催されています。空中に旗があったり、道路がペイントされていたり、街全体がフェスタ・ジュニーナの飾りつけでお祝いします。

6月13日 聖アントニオ：結婚、恋愛

6月24日 聖ジョアン：焚火の象徴

6月29日 聖ペドロ：信仰、指導力、献身の象徴



お祭り自体は、この日付以外でも開催していて、フェスタ・ジュニーナ特有の食べ物、踊り、衣装、音楽、遊びがあり、この時期にしか感じるできない特別なイベントです。私は、日系コミュニティ、小学校、大学（USP）、公園で開催されていたお祭りに行きました。それぞれ特徴があり、同じフェスタ・ジュニーナでも色が異なるなど感じました。

【食べ物】

パモーニャ、クラウ、カンジッカ、ボロデフバ、ケンタオ、ショコニャキ



【踊り・音楽と衣装】

クアドリリャというペアになって踊る伝統的なダンスがあり、列を作ってトンネルをくぐったり、手をつなぎ大きな輪を作ったり、音楽に合わせてジャンプしたりします。新郎と新婦の格好をした人が必ずいて、その人たちを先頭に踊ります。一般的な格好はチェック柄のシャツで、女性は三つ編みとリボン、男性は麦わら帽子と髭を付けて参加します。

【遊び】

子供たちが遊ぶ屋台がたくさんあり、各ゲームでポイントを稼ぎ、最後に景品と交換するシステムです。魚釣り、ボール投げ、輪投げ、しっぽ付け、鶏投げなど、日本では一般的ではない遊びもありました。



また、どこのフェスタでもビンゴが開催されていました！！

ブラジルでのワールドカップ🌐

サッカー大国のブラジルでワールドカップを観戦することができて、夢のような体験をしています。ブラジルの試合がある日には、社会全体が試合に合わせて物事を進めていくため、通常運転ではなくなります。例えば、大学は授業がなくなったり、学食の閉店時間が早まったりします。また、至る所にテレビが設置され、常にワールドカップの試合が見られるようになります。報道番組も試合当日になると、ほとんどサッカーの話題しかしていないように思えるほどサッカーについて話しています。一番驚いたことは、試合が始まると、道には一台の車も走らなくなることです。試合が始まる前には、家に着いて観戦の準備をします。みんな、友達や家族と観戦することが一般的で、フェイスペイントやTシャツ、小道具を使って全力で応援していました。レストランやバーは満員になり、しっかりと見ることができない場合もあるため、家で盛り上がる方が私は好きです。

日本にいるときは、ワールドカップにそれほど興味がなく、サッカーのルールも全く知りませんでした。そのため、試合観戦を楽しめるのか心配でしたが、みんなでテレビにくぎ付けになって叫びながら一緒に空間を過ごすことの楽しさや、ゴールが決まったときにハグをする温かさを体感して、サッカー観戦が面白くて応援したくなる気持ちが理解できました。



ストライキ

約2か月続いたストライキがやっと終わりました。学生が要求していたことの全てが承認されることはありませんでしたが、奨学金の増加など、いくつかは交渉の結果改善されたものもあります。前期の授業が始まってから1か月半でストライキになり、それから授業が全く行われていなかったのので、同じ授業を取っている人と仲良くなることや、友達の間係を築くことができなかったのが悲しい点です。現在は学校生活が戻り、以前と変わらない日常を過ごしていますが、授業が少なかったにもかかわらず、期末テストが全範囲で計画されていることに衝撃を受けています。

ストライキがあったおかげで空き時間に様々なことに挑戦できたというメリットもあれば、友達と過ごす時間が圧倒的に減少して、友達とたくさん話すことができなかったというデメリットもあります。しかし、これらのストライキを通した経験は日本ではできないことだと考えれば、貴重な期間であったと思います。

これまで常に新たな刺激を得ながら生活してきて、学問的なことに限らず、人生において大切なことを学ぶことができた実感しています。日本との差異が大きいからこそ、考えさせられることが多く、悩むことばかりでしたが、辛いことも含めて「楽しかった」と言える1年間の留学でした。帰国して、新たに得た視点から日本の物事を見ることがとても楽しみです。

これまで私の月例報告書に目を通してきてくださり、ありがとうございました！

少しでもブラジルを身近に感じる事ができていたら良いなと思います♪